OCU
RCHR 大阪市立大学人権問題研究センター
第29回　サロンde人権

『人権問題ハンドブック4　環境問題と人権編』発刊記念講演会

公害問題と向き合った学究たち

①講演「環境問題と人権」　宇井純さん（公害学）
②対談「井関進氏博士論文拒否事件から30年を振り返って」
宇井純さんと木野茂さん

★参加された方には『人権問題ハンドブック4　環境問題と人権編』を進呈します。
★終了後、宇井先生との交流会も予定しています。

話題提供：宇井純

1932年生まれ。東京大学工学部応用化学科卒業後、日本ゼオンに勤務。1959年に東大大学院に戻り、水俣病を調べ始める。1965年、東大助手となり、1970年より東大自主講座「公害原論」を主宰、15年間続く。1986年～2003年、沖縄大学教授。主な著書に『公害の政治学』『公害原論』『キミよ歩いて考えろ』『公害自主講座15年』『日本の水はよみがえるか』など。水俣病問題では井関進氏と共同発表や患者の支援で交流があった。

無料

11月11日（木）
午後3時～5時
法学部棟11階
大会議室

お問い合わせはセンターまで
06-6605-2035
info@rchr.osaka-cu.ac.jp

1956年に公式発見された水俣病。その原因がチッソ水俣工場からの排水であることは早くから指摘されていたが、チッソが当時の高度経済成長を支える企業であったことから、水俣病の公害認定と被害の拡大防止は長年にわたって放置された。この過程で、原因究明を遅らせ、被害を隠蔽することに協力した専門家の人たちも現れた。しかし、被害者の立場に立って真実を明らかにすることを自らの使命とする学究たちも現れた。その多くが、若い研究者たちであった。そしてこれらの人々は、様々な圧力に直面することとなった。

大阪市立大学大学院工学研究科に在籍していた井関進氏もそのひとりだった。水俣病に関わった彼が1971年に提出した博士論文の付記には科学者の社会的責任が吐露されていただけであるが、教授会はこれを拒否した。その不当を訴え続けて1年後、彼は自死を選択した。その遺志を受け継いで取り組まれてきた大阪市立大学における公害問題に関する教育活動の軌跡が、このたび『人権問題ハンドブック4　環境問題と人権編』にまとめられた。今回はこれを記念しての企画である。

講演会では、早くから水俣病に取り組み、東京大学での自主講座運動をはじめ、科学者として公害の告発を続けてこられた宇井純氏をお招きしてお話しをうかがう。

そして、井関氏と親しかった本学の木野茂氏との対談を通じて、井関事件からの30年を振り返り、科学者と学問のあり方を考えたい。

おりしも水俣病関西訴訟の最高裁判決が10月15日にあり、国と県の行政責任がやっと認められたが、水俣病はいまだに終わっていない。被害発生から半世紀という月日を経て、水俣病が大学に対して問うているものとは、なんだろうか。